

WEB版 私と、定禅寺通

定禅寺通エリアで活動する方にお話を伺いました



第1回

(一社)定禅寺通エリアマネジメント 代表理事 氏家 正裕 さん

定禅寺通活性化検討会にて基本構想の検討やミニ社会実験の実施など、エリアのまちづくりに取り組んできた。4月からは(一社)定禅寺通エリアマネジメント(略称JSAM)の代表理事を務める。

平成30年10月から定禅寺通活性化検討会で活動されてきて、令和4年4月にJSAMを立ち上げるまでの経緯を教えてください。

検討会で都市計画や公共交通をからめた大規模な活動ができたのは、民間だけではなく、官の力があって運営された団体(仙台市と仙台商工会議所が事務局を担う)だったからだと思います。

でも、まちづくりって本来民間がやっていかなければいけない。かなり困難なことはよく分かります。官のようなマンパワーや時間をかけるにはものすごい力がある。自分たち民間にはそんな力はないけれども、でもやっていかなければいけないという思いがずっとありました。検討会では、「定禅寺ストリートアライアンス」プロジェクトを通して、民間のエリアマネジメント会社を作るための模索をしていましたが、実際に会社を立ち上げるきっかけはなかなかつかめませんでした。

そんな中、検討会の解散が決まり、**検討会や民間の先輩たちが脈々と続けてきたまちづくりを引き継いでかたちにする団体が必要で、それはやはり僕たち民間の力でやっていかなければいけない、という想いでJSAMを立ち上げたんです。**共に設立した榊原さん(NPO法人都市デザインワークス代表理事)も、そこに加わった今野さん(株)ユーメディア代表取締役社長)も同じ想いだったと思います。

JSAMが始動して、改めて感じたことなどがあれば教えてください。

「まちづくりは市や県がやるもの。自分たちはこうしてほしいと伝えればよくて、行動までしなくてよい」という意識の方もいらっしゃるかもしれませんが、僕たちは行動していくことが大切だと思います。

自分たちのまちならば、もっと自分たちで汗を流してかたちにしていく。それに対して反対意見や制度の壁が出てきた時に、批判するだけではしょうがなく、民意を作っていくなり、制度を変える動き方をしていくなり、もっと汗をかかなければいけないと思っています。過去に十分行動してきた上で、

思うところがあって汗をかくことをやめた方もいるかもしれませんが、まだ始めたばかりの僕たちが言うのは早いかもしれないけれど、**やっぱりもうちょっと僕たちが頑張らなきゃいけない**という気はするんです。

ただし、全員が頑張れるわけではない。無理な方もいらっしゃると思います。僕のような業種(不動産)は、この活動に汗を流しても、いつかは自分に返ってくる可能性がある。**自分の敷地だけでなくエリアに対する投資として、お金も時間も使うべきというのは大きな意味でのビジネス**でもあるんです。

大企業さんは、多くの苦勞をしながらそういうビジネスをやっている。僕たちも、ごく小さい規模の会社なのかもしれないけども、**みんなで力を合わせていけば、定禅寺通エリアをもっと変えられるかもしれない。**50年単位でみたら、社会貢献というエリアへの投資はぜんぜん損じゃないです。それをやらないってことは将来に資産を残せないということなので、もったいないですよ。

こういう話を、僕と同じような立場の方々話しているんです。ただ、大きな不動産を所有している方でも実情は余裕がなかったりして、簡単な話じゃないなって思います。

「やるべき論」ではなくて、**やれる人が率先してやって、出来る人がちょっとずつ力を貸していけばそれでいいんじゃないか、**と思っているんです。

また、JSAMに対して、儲けるための団体じゃないか・何か別の思惑があるんじゃないか、とか言われることがあります。まちづくりの諸先輩方に聞いても、やはり同じような問題にぶつかってきたようです。もちろん、まちづくりを継続するための収益は必要ですし、先述のように間接的に自分の利益につながることはあります。ただ、単純に儲けようという考えではない。

まちへの強い想いをもちながら、皆さんに納得していただけるような活動や発信をしていかなければいけないということを改めて感じているところです。

WEB版 私と、定禅寺通

第1回 (一社)定禅寺通エリアマネジメント
代表理事 氏家 正裕 さん

肴町公園周辺エリアまちづくり協議会の理事長としても活動されていますが、定禅寺通エリアと肴町エリアの違いはありますか。

定禅寺通には、地域の先輩たちが一生懸命まちをよくするための取り組みをやってきたという土台があります。僕も、立派そうなことを言っている、諸先輩方の汗の土台の上で踊らせていただいて、かたちにするチャンスをいただけたという感じなんです。JSAMは恵まれていると思います。

肴町にはそのような土台がないので、地べたを這いずりまわるように地道な活動から始めないと地元のご理解を得ることができない。定禅寺通の先輩方が汗をかいてきたのと同じことをやっていかないといけないと思っています。

一方で、肴町がいいと思うのは、地域の外から来た人たち、それも比較的若い人たちが流れを作って、まちづくり団体ができたことです。

エリアが異なると、まちづくりのプロセスや方法は必ずしも同じでなくていいのかもしれないですね。

未来の、例えば2030年の定禅寺通は、どのようになっているといいと思いますか。

JSAMというより個人的なチャレンジに近いのですが、「定禅寺通シリコンバレー計画」(仮称)ということを進めています。

定禅寺通って、杜の都の象徴的な場所で、市民と県民の宝ですが、経済生産活動は高いエリアではない。その定禅寺通に、世界を変えるようなイノベーション精神を持つ企業や人が集まり、つながりが増え、そこで生まれたことが次々世に出ていくことで、定禅寺通に来れば面白い活動ができる、イノベーションのヒントが見つかる、他の企業とつながることができる…というような状態を作りたいんです。

このような状態になれば、グランドレベル(建物の1階部分)のカフェや施設の利用や出会いが増えて経済生産活動に良い影響が出て、オフィスビルが作られるなどまちのかたちにも影響を与えていく。こういった流れが出来れば屋間の人口も増え、帰りに寄り道をして回遊性も生まれてくる。そういうビジネス拠点にしていきたいと思っています、「IDO-BA(イドバ)」(仮称)っていう名前でもイノベーションプラットフォームのような場所を作ろうと動いています。

さっそく、仲間の一企業が本部機能を定禅寺通に移す予定です。今後協調する企業が増えて、次々定禅寺通に集積すれば、もっと盛り上がる。彼らがみんなまちづくりにも参加してくれるようになれば、さらに盛り上がる。ついでにまちづくりにお金も出してもらえればJSAMとしてもありがたいですね(笑)。

最初は地元のイノベーション精神を持った中小企業が集まって、それを面白いと思った大企業が後から入って盛り上げていく、というプロセスがよいと思っています。今はまだ小さい規模の活動ですが、着実に動いています。

メディアテークがあり、これから市役所本庁舎の建替や県民会館の移転が進んでいく定禅寺通エリアは、地元発のイノベーションを生むような場所としてふさわしいんじゃないかと思っています。泉中央でもなく、仙台駅東口でもなく、仙台駅前でもなく。

この計画は、定禅寺通だけがよくなればよいというものではなくて、集まってきた大企業は市中心部の仙台駅前に超高機能オフィスを作って大きな支店を入れてもらう。地元の中小企業は定禅寺通で固まっていく。仙台駅前がニューヨークだったら定禅寺通はシリコンバレー、それで都心部全体が活性化していけばいいんじゃないかって思います。

定禅寺通エリアのオススメスポットや魅力を教えてください。

裏定禅寺っていうんでしょうか、国分町の一部、あの定禅寺通の少し裏からちょっと入ったところなどに結構面白いお店がある。パリのシャンゼリゼ通りもそうなんだけど、通りに大きなお店がたくさんあって、裏側にも面白い店があって、裏路地感と表通りの華やかさのギャップっていうのが魅力的ですね、陰に魅力がある。

路地から通りに出ていく時の高揚感と、通りから路地に入っていく時の裏感とか、通りがにぎやかになることで裏側により味がでてくる。その雰囲気が好きで、定禅寺の魅力なんだらうな、と思います。まちを考えるにあたって「定禅寺通エリア」を通り沿いだけにしていないのはこういう理由なんだろうね。

貴重なお話
ありがとうございました！

